

平成 24 年第 5 回 国家戦略会議後記者会見要旨（古川国家戦略担当大臣）

○ 日 時： 平成 24 年 6 月 4 日（月） 20:25～20:35

○ 場 所： 官邸エントランス

○古川大臣

国家戦略会議に先立ち、私が主催しております「グローバル人材育成推進会議」において「グローバル人材育成戦略」を取りまとめました。この戦略は、我が国の再生戦略の一環として、創造的で活力のある若い世代の育成、特に、豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、なおかつ、日本人としてのアイデンティティを持った、国際的に活躍できるグローバル人材を継続的に育成するというものであります。具体的には、英語教育の強化、留学の促進、大学入試の改革、秋入学導入の検討や採用活動の改革等をはじめとする諸方策に、高校関係者、大学関係者、企業関係者、保護者等が一斉に取り組み、若い世代を後押しする好循環を我が国社会全体で生み出そうとするものであります。

○記者

これについて、まず具体的にどのようなことに取り組んでいく予定でしょうか。

○古川大臣

先程、国家戦略会議で総理からも指示がありましたけれども、通年採用など、政府において、国家公務員の採用など、できることから取り組んでいこうという姿勢であります。

○古川大臣

まず先に、戦略会議についてもご報告させていただきます。本日の議題は教育システム改革及びグローバル人材育成の推進、その他の案件として生活支援戦略の骨格、若者雇用戦略の原案を議論いたしました。関係大臣から説明を行った後、議論を行い、最後に総理からご指示をいただきました。総理からのご指示は、皆さんも聞いてらっしゃったかと思いますが、簡単に申し上げますと、教育システム改革については、次世代の戦略的な育成において極めて重要であって、今日の議論も踏まえ、平野大臣の下で改革の道筋を一層明確にし、数値目標や工程等についてさらに検討を深めることとご指示がありました。また、グローバル人材の育成に関しては、通年採用も含めた採用時期等の柔軟化など、可能なことから率先して取組を進めると。私の下で、今日の議論も踏まえて、2020年には若い同世代の約 1 割相当、11万人が留学経験等を持てるようにするなど、グローバル人材の育成に向けた施策や工程の具体化を更に進めること、というご指示がありました。次に生活支援戦略については、生活保護の適正化は、国民の制度への信頼を得るために不可欠であ

ると。生活困窮者支援は、生活保護からの早期脱却等に不可欠であって、小宮山大臣の下で早急に施策を具体化し、今月中に中間取りまとめを行い、秋までに戦略策定を完了すること、というご指示がありました。こうして、それぞれまとめていただいたものを、全体として、私に取りまとめ、再生戦略に反映するようにというご指示をいただいたわけでございます。

今日の議論の詳細については、あとで事務方からブリーフィングで聞いていただければと思いますが、最初の教育システム改革・グローバル人材育成の議論を簡単にまとめさせていただきますと、やはりスピード感を持って取り組むことが大事で、具体的な数値目標などもきちんと決めて、工程表も作って、取り組んでいくことが大事であると。さらにこの教育システム改革やグローバル人材育成というのは、官民を挙げて取り組む必要があると、特に政府においては率先して取り組んでまいりたいと、そういうお話がございました。さらに、こうした点においては、教員の側、教える側の体制の整備、例えば外国人の教諭を増やすであるとか、そうしたグローバル人材を養成できるような教員の養成という、教員の側の問題もしっかり取り組んでいく必要がある。そういうことでだいたい、皆さんの認識は一致いたしました。

生活支援戦略、若者雇用戦略については、いずれも、将来の日本の成長につながっていくような、取組としてかなければいけないだろうと。先程の、総理からのご指摘に加え、そうした視点を持っていくことが大事だろうと、こういうことが皆さんの認識として共有できたらと思うっております。私からは以上です。

○記者

こういう状況の中で大臣に再任された受け止めと、改めてのご挨拶をいただけますでしょうか。

○古川大臣

まさに日本再生戦略の作業を取りまとめることを通じて、国民の皆様方が将来に対して、夢と希望を持てるようなビジョンを示し、そのビジョンを実現するための具体的な政策、これを明確な数値目標や工程表というものを作って、一つ一つ着実に実施していく、そうした方向にもっていくように全力で努力をしてまいりたいと思います。

○記者

教育改革のところでスピード感のお話がありましたが、なかなか慣例や慣習が多い分野だと思いますので、そうした意識改革をどのように進めて、スピード感を持って実現させていくのでしょうか。

○古川大臣

意識改革を進めるためにも、具体的な数値目標であるとか工程表をしっかり作って、それを実現していくと。また、フォローアップというのも大事だと思っております。今日、

平野大臣からも、きちんと目標を立てて、PDCAのサイクルをきちんと回すという、そういう表明もいただきました。そうしたことを一つずつきちんとやっていくということが意識改革にもつながっていくのではないかと思います。

以 上